

「消防活動における共有」

私は消防職員を日本で一番「暇」な職業にしたい。ではどうしたら日本で一番「暇」な職業になるか考えました。発表テーマは「消防活動における共有」です。今回私が皆さんに意見発表で言いたい事は二つあります。一つ目は災害時の共有、二つ目は災害を未然に防ぐための共有です。まず一つ目は災害時の共有についてです。PDCAという言葉はご存知でしょうか。Pプラン計画・Dドゥ行動・Cチェック検証・Aアクション改善です。災害での活動でも必要なことです。災害時の振り返りをして改善し、お互い「共有」する事で消防レベルを上げることが出来ると思います。

例を挙げますと、火災現場での活動です。火災において初期消火はとても重要です。消防職員や消防団どちらかが先に駆けつけた方から消火活動しておりますが、火災は毎回同じシチュエーションで起こる事がなく、その場その場の判断が重要になります。でも、もっと重要なことはその火災現場での対応や状況がどうだったかの良い点・悪い点の振り返りではないでしょうか。例えば、地域住民の安全のために消火活動を行うというP計画を立てる。実際火災現場で消火活動を行う。これがD行動です。今回の火災現場での良い点は間にポンプを繋いだから消火が早く行えた。悪かった点は、消防団の車の停め位置が悪く消防車の搬入が遅くなった。などの振り返りや反省がC検証です。今回の火災現場の振り返りを通じて今後の活動に活かしていく、また同じ失敗を繰り返さない為にはここをこういう風にして、ここはこういう統一を図ろうなど。これがA改善です。さらに本当に大事なのはこの後です。この改善を消防署と消防団が「共有」してそれぞれの現場レベルを上げる必要があるのではないのでしょうか。これは火災だけではなく災害時すべてにおいてです。話し合いの「場」を設けて共有し、改善していければ地域の防災リーダーとなる消防団の防災力強化に繋がります。

二つ目は災害を未然に防ぐための共有についてです。先程、話し合いの「場」を設けると言いましたがその際地域の民生委員の方々にも参加いただき、今後の改善を共有し、地域の方々にフィードバックしてもらおう。回覧板などでいいと思う。一人暮らしのお年寄りの家は消防団が訪問するようにする。例えば、今回の火災の原因がコンセントからの出火であれば原因と対策を地域の方々が知っておくことで火災が怖いものと再認識していただき、予防策をすることで未然に防ぐことができる。災害の反省や原因を消防職員だけの認識で終わるのではなく、消防署・消防団また地域住民が共有して災害を未然に防ぐようにするためにも皆様のお力をお借りできないでしょうか。消防職員を日本一「暇」な職業にしたいので。以上で私の意見発表を終わります。ご静聴ありがとうございました。